

## 株式会社パスコ 関連記事情報

掲載紙：日刊建設工業新聞 掲載面：3面

発行日：2014年3月19日（水）

### パスコ、アトックス、仏アレバ

# 無人ヘリで線量測定

## 里山、森林の除染促進

パスコ、原子力発電所の保守管理を手掛けるアトックス（東京都中央区、矢口敏和社長）、フランスの原子力関連企業のアレバ社は共同で、無人ヘリコプターを使って上空から地表の放射線を測定するモニタリング技術を開発した。無人ヘリコプターにGPS（衛星測位システム）を搭載し、得られた位置情報と放射線データを組み合わせ、放射性物質の汚染濃度や空間線量をマッピングする。GIS（地理情報システム）を活用した行政支援ツールとして積極的に提案する考えだ。

福島第1原発から約15キロの距離にある福島県檜葉町総合運動公園で18日、モニタリングのデモンストレーションを行った。機体下部に放射線測定器、GPS、タブレット端末などを搭載したヤマハ製の産業用無人ヘリコプター（長さ3・6メートル×幅1・1メートル、高さ0・

放射線測定器は筒状の遮へい体（コリメーター）で覆い、地表の一定範囲だけを高精度に測定できるように工夫している。低線量下でも高度10メートル程度

で約1分間ホバリングすれば100平方メートルの範囲を一度に測定できる。1日の作業量に換算すると約2万5000平方メートルの範囲に及ぶ。森林総合研究所との共同研究で、さまざまな環境での測定方法も開発している。



福島県檜葉町で行われたモニタリングのデモンストレーション

きる利点を生かし、同じ地点を継続的に測定する方法も提案。放射性セシ

ウムが移動する様子を把握したり、将来的な土壌汚染の予測などにも応用できるとしている。福島県内などの自治体には、国が実施するより詳細な放射線測定を求める声がある。3社はそうしたニーズを踏まえ、活用方法を多数用意する方針だ。